

ジェンダー主流化ってなんですか？

「ジェンダー主流化」という言葉を聞いたことはありますか？
埼玉県では、誰もが暮らしやすい社会を目指して「ジェンダー主流化」を推進しています。
今回は、ジェンダー主流化とは何か、県の取組を交えて紹介します。

♀♂ ジェンダー主流化って何？

ジェンダー(gender)は、社会や文化によって異なる、男女の役割、関係性、価値などに基づく考え方や規範のことをいいます。また、出生時に割り当てられた性別とは異なる多様な性自認も含めてジェンダーと言う場合があります。全ての人々が性別に関わりなく、社会において尊重され、自己決定ができる社会にしようというのが「ジェンダー平等」の考え方です。「ジェンダー主流化(Gender Mainstreaming)」とは、ジェンダー平等を達成する手段として、ジェンダーによる思い込みや偏見、性別役割分担によって格差が生じていないかという視点に立って、施策や事業が及ぼす影響などを点検し、その解消を図っていく取組です。

SDGs(持続可能な開発目標)でも、実施原則として17のゴール全てでジェンダー主流化の視点が不可欠とされています。

企業における取組事例

スウェーデンのある自動車メーカーでは、長年にわたり実際の事故から収集したデータによって、女性は男性に比べて骨格や身体的な強度の違いから、むち打ち症になる可能性が高いことを明らかにしました。その原因のひとつは、衝突に関する実験で用いる人体ダミー人形が男性の体型を基本として設計しているからだと考え、シートベルトの設計を見直すなど性差に考慮した開発を行っています。

※こうした技術革新の動向についてはP5のコラムをお読みください。

♀♂ ジェンダー主流化ってどうやるの？

では、どのように進めればよいのでしょうか。
開発途上国でジェンダー主流化を進めてきた国連開発計画(UNDP:国際連合の補助組織)は以下のように手法をまとめています。(*1)

- ①ジェンダー統計(*2)の収集・分析
- ②格差の解消に向けた施策や事業の立案
- ③施策や事業を実行するための予算の確保
- ④実施の効果などをモニタリング・評価

ジェンダー主流化は事業で実践するだけでなく、自分たちの組織におけるジェンダー平等の推進が不可欠です。意思決定層におけるジェンダーバランスや研修の継続など、環境整備に取り組むことも重要です。

(*1)出典:大崎麻子「ジェンダー主流化の20年(2)~UNDPの経験①~」内閣府男女共同参画局「共同参画」(平成30年6月号)

(*2)社会的・文化的に形成された男女の生活や意識における偏り、格差、差別を明らかにする統計のことです。男女間格差が依然として大きい現状を踏まえ、その解消に向けて、男女別のデータを確実に取得します。同時に、性的マイノリティの実態や課題の把握もまた必要であることから、質問項目や選択肢等を検討し、より包括的なデータの収集・分析を行うことも重要です。



埼玉県による事業点検の試行

ジェンダー主流化を推進していくに当たり、まずは事業点検の手法を確立することが必要となります。そこで、県では令和5年度、幅広い県政の分野から5つのモデル事業を選定し、試行的な事業点検を実施しました。この試行に当たって、国際協力の分野でジェンダー主流化について経験豊富な独立行政法人 国際協力機構(JICA) 平和構築部の田中由美子シニア・ジェンダー・アドバイザーと、齋藤有希さん(*当時)にアドバイザーとしてご協力いただきました。

事業点検の試行(令和5年度)

- ジェンダーの視点に立った災害対応
- 女性の創業支援
- 新規農業者の育成・確保
- 都市公園施設の整備
- 男性職員の育児休業の取得促進



それでは、ジェンダー主流化の進め方について、「都市公園施設の整備」を例として説明します。

①ジェンダー統計の収集・分析

県営公園は多くの県民にとって身近なオープンスペースですが、これまではジェンダーの視点で整備しておらず、性差を把握できる統計データも持っていませんでした。そこで、誰もが安心して快適に利用できる県営公園とするため、利用者に満足度やニーズに関するアンケート調査を実施しました。

利用者アンケート調査

- ✓対象公園は、大宮公園及び子ども動物自然公園。
- ✓各公園施設に対する満足度を聞いたところ、女性は「子ども用トイレが少ないこと」や「トイレに高さの低い手洗いが無いこと」を不満に思っているなど、男性と比べてトイレに使いづらさを感じていることが分かった。

トイレに対する満足度(回答数:464)

総数	46%
女性	39%
男性	61%
子ども連れ	41%

授乳室に対する満足度

総数	42%
女性	37%
男性	47%
子ども連れ	38%

(出典)県営公園に関する利用者アンケート、幼稚園へのヒアリング結果より(令和5年7月に一般利用者を対象に実施)

②施策や事業の企画・立案

アンケートの結果を踏まえて、性別によらず誰もが利用しやすい遊具や授乳室等のある広場、安心して快適に利用できるトイレの整備が必要であるとの結論に至り、「誰もが使いやすい公園づくり」を立案しました。

③予算の確保

令和6年度新規事業として「誰もが使いやすい公園づくり」を予算要求し、予算が認められました。令和6年度は「誰もが使いやすい公園づくり」として「誰もが遊べる広場の整備」と「誰もが利用しやすいトイレの設置」に取り組みます。

④検証・改善

県では、従来からEBPM(証拠に基づく政策立案)の推進に取り組んでいます。更に県として、性差による是正というジェンダー主流化の視点に基づく事業点検も行います。



「誰もが暮らしやすい埼玉県」へ

県では、令和5年度に行った事業点検の試行結果を踏まえ、令和6年度はジェンダー主流化を全庁展開します。また、市町村や企業においてもジェンダー主流化の視点を取り入れた事業や活動を展開していただくことにより、県全体としてジェンダー平等の実現を目指していきます。



ジェンダー主流化は、少し視点を変えるだけで大きなインパクトを生み出せる取組

独立行政法人 国際協力機構(JICA)
ガバナンス・平和構築部
ジェンダー平等・貧困削減推進室
兼 平和構築室(*当時)
齋藤有希さん



今回の事業点検については、対象事業を担当する方々がとても真摯に取り組んでくださり、ジェンダー主流化に対する

熱意を強く感じました。数回にわたり、各事業に対して効果的なジェンダー視点などを助言させていただきましたが、いずれの事業も回を追うごとに改善され、調査や分析もしっかり仕上げられました。私自身も新たな学びや発見があり、今回この事業点検にかかわらせていただいた甲斐があったと思います。今回の点検を踏まえて令和6年度に取り組む予算もつくなど、ジェンダー主流化を順調に進められており嬉しく思っています。

今後は、実施状況を継続的に観察し、その変化や状態を把握し続けることが大切です。また、事業でジェンダー主流化を実践するだけでなく、組織もジェンダーの視点から点検することが不可欠です。職場でのジェンダー平等は、すぐには達成されないかもしれませんが、まずはできることから始めてみるのが大切です。ジェンダー平等や多様性の推進に関する職員の研修も継続してほしいと思っています。

ジェンダー主流化という言葉は、難しく聞こえるかもしれませんが、とても楽しい取組だと多くの人に知ってほしいと思います。ちょっとだけ見方(視点)を変えるだけで、非常に大きなインパクトを出せるというところがおもしろいと思っています。

独立行政法人 国際協力機構 <https://www.jica.go.jp/>



(2023.9.15 写真左からJICAガバナンス・平和構築部 増田淳子部長、大野元裕知事、田中由美子シニア・ジェンダー・アドバイザー、齋藤有希さん)
今回の事業点検にご尽力くださったJICA平和構築部シニア・ジェンダー・アドバイザーの田中由美子さんが、2023年9月にご逝去されました。生前のご貢献に感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。